編集後記

本号の巻頭言は宮川名誉教授にお願いいたしました。

「鋼橋の守護神：塗料で、丈夫で美しく長持ち」と題して、ともすれば構造に比べて軽視しがちな塗装について、その役割と重要性を説いていただきました。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

技術評論では「夢への挑戦　－鋼鉄製海上空港実現への軌跡―」と題して、太田社外取締役より気宇壮大なプロジェクトについての玉稿を賜りました。誰も真似のできない経験と成果であり、夢を持ち続けることの大切さを拝受いたしました。

我が国では、近年の気候変動の進行により、大雨や短時間強雨の発生頻度が増えており、今後さらに増えると予想されています。平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨、および令和3年5月、8月の豪雨の風水害が橋梁を含む各地のインフラに甚大な被害をもたらしました。当社ではグループの経営理念に基づき、率先してその復旧工事に勤しんでおります。本号においても、第6只見川橋りょう、水郡線久慈川橋梁など、その一端を報告させていただきました。

また昨今、国土交通省はインフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）を強力に推し進めております。当社においてもICT関連の技術、システムの実用化を順次進めているところであり、魔の川、死の谷、ダーウィンの海を突破し、劇的な生産性向上に寄与することを目指しています。本号では、「床版・橋面工CIMシステム（CIM-SLAB）」の紹介をしています。

最後になりますが、コロナ禍も3年目となり事態の収束を期待しているところ、ウクライナ情勢が激変するなど、予断を許さない事態の続くなか、執筆者を始め多くの関係者のご協力により本号を無事に発刊することが出来たことに深く感謝いたします。

宮地技報編集委員会

委員長	奥村恭司		
副委員長	平島崇嗣	鈴木義孝	野澤栄二
委員	相澤達也	池田浩	上原正
	梅澤真悟	嬉克徳	越中信雄
	高野敦	永谷秀樹	藤井利明
	松本博樹	宮下和義	村井向一
	村上貴紀	吉川薫	吉元大介
事務局	田村修一	藤田学	横澤幸貴

宮地技報　第34号

発行日　令和4年6月30日

発行所　宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006　東京都中央区日本橋富沢町9番19号

TEL　03(3639)2111(代)

印刷所　望月印刷株式会社